

<参考和訳>

AIG、2010年第1四半期の自社帰属純利益は15億ドルと公表

2010年5月7日（ニューヨーク発）：AIGは、2009年第1四半期が44億ドルの純損失（希薄化後、普通株式1株当たり39.67ドルの損失）を計上したのに対し、2010年第1四半期は、自社に帰属する純損益が15億ドル（希薄化後、普通株式1株当たり2.16ドルの利益）に回復したと公表しました。前年同期の修正純損失は21億ドルに対し、2010年第1四半期は8.09億ドルの修正純利益を計上しました。

第1四半期業績

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり	
			2010年*	2009年
AIGに帰属する純利益（損失）	\$1,451	\$(4,353)	\$2.16	\$(39.67)
修正純利益（損失）算出のために、損失を加えて利益を控除：				
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引後	(360)	(2,410)		
事業売却の純利益（損失）、税引後	(77)	175		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの損失、税引後	(94)	(118)		
非継続事業の純利益**	1,173	86		
AIGに帰属する修正純利益（損失）	\$809	\$(2,086)	\$1.21	\$(22.90)

* シリーズCの優先株主への純利益帰属後の普通株主に帰属する純利益に基づき算出。

** 非継続事業とは、アメリカン・インターナショナル・アシュアランス・カンパニー・リミテッド(AIA)、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー (ALICO)、南山人寿保険 (ナンジャン) を指す。

AIGに帰属する修正純利益（損失）を構成する第1四半期業績の要約

（単位：百万米ドル）

	2010年	2009年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益（損失）：		
損害保険事業	\$ 879	\$ 710
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業	1,123	(160)
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業	220	358
小計 - 継続事業に属する保険事業	2,222	908
金融サービス事業	(474)	(1,090)
FRBNYへの支払利息および償却費	(833)	(1,530)
FRBNYが保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の高い優先受益権	(519)	-
その他	547	(1,352)
法人税等	(134)	978
AIGに帰属する修正純利益（損失）	\$ 809	\$ (2,086)

繰延税金資産にあたる評価性引当金が多額にのぼることから、AIG は法人税等を完全に認識し切れないため、別途明記していない限り、本プレスリリースで言及する値はすべて税引き前の値です。

継続事業に属する保険事業の税引き前利益は、前年同期が 9.08 億ドルであったのに対し、2010 年第 1 四半期は 22 億ドルに増加しました。損害保険事業は、2010 年に 4.81 億ドルの異常災害損失が発生したにもかかわらず投資パフォーマンスが改善したおかげで、前年同期の 7.10 億ドルに対し、2010 年第 1 四半期は 8.79 億ドルの利益を計上しました。北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、2010 年に正味投資利益が増加したことと、不利な繰延保険獲得費用 (DAC) が発生しなかったことが主因となって、黒字に転換しました。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、個人定額年金の低迷と生命保険の販売減少の結果、前年同期比 6.5% 減になりました。ただし、解約の動きは収まりました。金融サービス事業においては、AIG のクレジット・スプレッドが縮小した影響で幾分相殺されたものの、資産ポートフォリオおよびデリバティブ・ポートフォリオの公正価値が増加したため、AIG ファイナンシャル・プロダクツ・コープ (AIGFP) の損失は減少しました。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) は、過日公表した航空機売却に伴う資産減損が唯一の原因となって、損失を計上しました。

上表の「その他」には、資産運用目的で所有する不動産の減損によって一部相殺された金融受け皿会社 (Maiden Lane III) の評価益 7.51 億ドルが算入されています。AIG 傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、返済延滞および債務不履行の減少に基づき、7,300 万ドルの利益を計上しました。2009 年第 1 四半期の「その他」の値には、金融受け皿会社 (Maiden Lane III) の評価損約 19 億ドルと UGC の損失 4.83 億ドルが算入されています。

アメリカン・インターナショナル・アシユアランス・カンパニー・リミテッド (AIA) とアメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー (ALICO) の売却を発表した結果、現在両社の業績は非継続事業として計上されています。また、それに応じて比較対象期間の値も修正し、上表の「第 1 四半期業績の要約」にも算入されていません。税引き前ベースでは、AIA は前年同期が 3.9 億ドルの利益であったのに対し 2010 年第 1 四半期は 6.58 億ドルの利益に、ALICO は 1.75 億ドルの利益に対し 5.43 億ドルの利益に、南山人寿保険 (ナンシャン) は 1.58 億ドルの損失に対し 1,800 万ドルの利益を計上しました。

2010 年 3 月 31 日現在のトータル・エクイティは、2009 年 12 月 31 日現在の 981 億ドルと比して 36 億ドル増の 1,017 億ドルに拡大しました。

2010 年第 1 四半期について、AIG 社長兼 CEO のロバート・H・ベンモシェは次のようにコメントしました。「過日公表した AIA および ALICO の売却を筆頭に、当社は 2010 年第 1 四半期に 510 億ドル以上の売却取引を公表しました。これらの取引は 2010 年内に完了する見込みであることから、間もなくニューヨーク連邦準備銀行 (FRBNY) に対する債務を大幅に削減し、持続可能な資本構造の再建に向けて大きく前進できると考えております。これまでの FRBNY 与信枠利用可能額の削減と同様に、調達資金を FRBNY 与信枠の債務残高返済やその可能額に充当すると、前払い委託資産の前倒し償却が一段と進むと思われれます。その一方、今後のれん代の減損、富士火災海上保険の追加持ち分取得によるバーゲン・パーチェス・ゲイン、一部企業の売却損益の影響を受ける可能性もあります。」

「継続事業に属する保険事業の営業利益は、一段と安定を取り戻した兆しを示しています。損害保険事業で異常災害損失が発生したにもかかわらず、チャーティス、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ、AIG スター生命、および AIG エジソン生命を合計すると、22 億ドルもの税引き前営業利益を獲得しました。非常に競争が激しい市場状況の中でも、広範囲にわたる販売網、顧客基盤、および従業員層を通じてフランチャイズを強化するため、役職員一同懸命に努力してきました。これらの進展は喜ばしい限りですが、達成すべき課題はまだ多く残っています。」

「住宅ローンのトレンドが改善の兆しを見せたため、UGC は 2007 年第 1 四半期以来初めて黒字に転じました。」

「ILFC は、2 件の有担保タームローンによる計 13 億ドル、無担保優先債の 27.5 億ドルを含め、2010 年第 1 四半期に約 40 億ドルの流動性を創出しました。また 4 月に約 20 億ドルの航空機売却を公表するとともに、自社の銀行借入枠を修正、拡大して、財務の柔軟性を高めました。臨時ではない正式な CEO 後任候補を検討しているところですが、長年 ILFC の CFO を務めてきたアラン・ランドが過日暫定的ながら社長兼 CEO に就任したことから、移行は円滑に進むと思われます。他方、アメリカン・ジェネラル・ファイナンス・インク (AGF) は、期末後に有担保借入と資産の証券化で 35 億ドルを調達しました。当社は、双方の企業の長期資金ニーズへの対応と AGF の代替戦略の検討に引き続き取り組んでおります。」

「当社は、事業の一段の安定化と強化に引き続き力を注いでいますが、事業再編の継続、未済取引の完了、ならびに負債比率が高い資本構造の改善計画策定も同時に進めております。」

AIG の安定化ならびに AIG の債務返済に向けた経営陣の戦略の進捗状況

AIG は主要事業の価値を維持・向上させ、秩序ある資産売却計画を実行し、将来的な事業価値を認識しました。AIG は、流動性と資本の柔軟性を維持しながら価値の最大化を図るために、継続的にこの計画を見直しています。

AIA および ALICO の売却取引：

- 2010年3月1日、AIGは、約355億ドルでAIAを英ブルーデンシャルに売却する正式契約を締結しました。355億ドルの内訳は、現金が約250億ドル、株式および株式連動証券が約85億ドル（額面ベース）、英ブルーデンシャル優先株が20億ドル（額面ベース）ですが、取引完了時に調整される可能性もあります。
- 2010年3月7日、AIGは、約155億ドルでALICOをメットライフに売却する正式契約を締結しました。155億ドルの内訳は、現金が68億ドル、残りはメットライフ株式ですが、取引完了時に調整される可能性もあります。

その他の取引：

- 2010年3月15日、AIGは、約850万株のトランスアトランティック・ホールディングス・インク株式の売出しを完了し、総額で約4.52億ドルを調達したことを公表しました。
- 2010年3月26日、AIGは、2.77億ドルの現金で（支払いは譲渡完了時）資産運用事業の一部をパシフィック・センチュリー・グループに売却する手続を完了しました。パフォーマンス・ノートと保持する利息持ち分を通じて、将来対価追加分を受け取る見込みです。
- 2010年3月31日、AIGは、チャーティス・インターナショナルの子会社を通じて、富士火災の議決権付株式を追加取得しました。富士火災は、上場している日本の保険会社で、損害保険事業および傘下での生命保険事業を展開しています。1.45億ドルを投じた

この追加取得によって、富士火災におけるチャーティスの議決権付所有持ち分比率が計41.7%から54.8%に増加した結果、チャーティス・インターナショナルが同社の支配権を獲得しました。今回の取得は、大規模な事業再編が進められている重要な日本市場において、チャーティス・インターナショナルのシェアを維持するために行ったものです。

AIGFPの清算状況:

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2009年12月31日時点の約9,407億ドルから20%減少し、2010年3月31日時点では約7,554億ドルとなりました。
- AIGFPはポートフォリオのトレードポジションを減らし、2009年12月31日時点の約16,100から11%減少し、2010年3月31日時点では約14,300となりました。

政府支援の状況:

- 2010年3月31日時点で、AIGのFRBNYの与信枠からの借入残高は216億ドルで、未払いの複利利息および手数料は58億ドルでした。2010年3月31日から2010年4月28日の間に、借入残高は15億ドル増加しました。調達資金は、FRBNYのコマーシャル・ペーパー買取制度を利用していたもので、期日が到来するカーゾン・ファンディングLLCとナイチンゲール・ファイナンスLLCのコマーシャルペーパー残高23億ドルを2010年4月26日に返済した件に主に充当しました。
- 2010年3月31日時点で、米財務省のコミットメント枠による利用可能残額は223億ドルでした。

損害保険事業

チャーティスの2010年第1四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、前年同期の7.1億ドルと比して24%増の8.79億ドルとなりました。これは、パートナシップ収入の回復を主因とする正味投資利益の改善によるものでした。

第1四半期の同営業利益には、チリ地震や他の自然災害などによる異常災害損失約4.81億ドルも算入されています。これに対して、前年同期には異常災害損失は発生していませんでした。コンバインド・レシオは、前年同期が96.7であったのに対して、2010年第1四半期は102.5となりました。ただし異常災害損失を除くと、当期のコンバインド・レシオは96.2になる計算です。加えて当期の値には、企業向け損害保険事業に属するレキシントン・インシュアランス・カンパニーにおける有利な変動2.04億ドルも算入されているのに対して、前年同期の値には、AIGエクセス・カジュアリティー関連事業における不利な変動1.69億ドルが算入されていました。レキシントンの有利な変動は、2009年第4四半期に強化した事業種類からは対象外でした。

2010年第1四半期、チャーティスの正味収入保険料は、前年同期比で1.1%減少し、76億ドルとなりました。小幅減少でも著しい改善で、改善したのはこれで4四半期連続となりました。これは、労災保険など、厳しい価格競争のある一部の事業におけるチャーティスの料率規律、ならびに利ざやが大きい事業の戦略的成長を反映した結果です。これらに加えて、チャーティスはリスク・マネジメント・イニシアチブを推進していることから、収益性と財務力が改善しています。引き続き契約維持率は上昇し、新規契約の申込みは増え、料率は安定していますが、正味収入保険料が依然として厳しい経済情勢の影響にさらされていることは否めません。

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業は現在、サンアメリカン・ファイナンシャル・グループというブランドに変更しており、2010年第1四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損益は、前年同期の1.6億ドルの損失に対して、11億ドルの利益となりました。改善した要因は、中核事業の安定化が続いたことおよび運用成績が改善したことです。

パートナーシップ収入の増加と金融受け皿会社（Maiden Lane II）における留保持ち分の有利な評価額修正が、投資ポートフォリオの豊富な流動性に起因する減益を相殺したことが主因となって、正味投資利益は前年同期と比して7.77億ドル増加しました。市況の改善と、2009年第2四半期に一時的ではない減損の認識に関する新たな会計基準を適用したことから、正味実現キャピタル・ロスは前年同期を大幅に下回りました。

保険獲得費用およびその他の保険関連費用は、前年同期の9.4億ドルから、2010年第1四半期は6.98億ドルに減少しました。これは、主として、前年同期には繰延保険獲得費用の発生に伴うマイナス調整が行われたのに対して、当期はなかったためです。

資金流出を十分に相殺するほど株価上昇のプラス寄与が大きかったため、2010年3月31日現在の運用資産は、前年同期比15.5%増の2,355億ドルに拡大しました。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比6.5%減の計47億ドルとなりました。個人定額年金の販売は業界の傾向と同調して減少し、生命保険の販売も伸び悩みましたが、競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業体の復活、およびホールセール事業体の生産性向上による変額年金の増収によって、一部相殺されました。解約率が一段と通常に近い水準に戻ったため、個人定額年金および個人変額年金の解約率と引出額は減少しました。

北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業

AIA、ALICO、およびナンシャンを非継続事業に分類した後、AIGの残りの北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、AIGスター生命とAIGエジソン生命を通じて行われています。

2010年第1四半期、北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、前年同期の3.58億ドルに対して、2.2億ドルとなりました。減益となった主因は、正味投資利益の増加によって一部相殺されたものの、実現キャピタル・ロスが繰延保険獲得費用に及ぼす恩恵（損金算入）の低減と保有契約の減少にあります。

生命保険は、独立代理店が徐々にAIG商品の販売を再開したため、販売が増加しました。医療保険では、2010年初頭に新商品を発売し、営業職員と独立代理店双方の販路で販売が伸びたことに支えられて売上げが増加しました。年金保険においては、円高に加えて、以前はAIG商品の販売を停止していた銀行での販売が徐々に回復したことが主因となって、満期を迎えた年金保険の再取込率が高水準に戻ったため、販売が増加しました。

金融サービス事業

2010年第1四半期、金融サービス事業部門は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）およびヘッジ会計処理の要件を満たしていないヘッジの影響額の調整前営業損失として4.74億ドルを計上しました。前年同期は11億ドルの営業損失を計上しています。

AIGFPは、事業とポートフォリオの段階的縮小に取り組んでいます。2010年第1四半期の営業損失は、前年同期の11億ドルに対して、2.98億ドルに減少しました。これは主として、

会社間借入金の支払利息の減少、AIGFP のポートフォリオの継続的縮小が営業損益に及ぼした効果、およびスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオが前年同期は時価評価損を計上したのに対して、当期は評価益に転じたことによるものでした。これらの好ましい結果は、クレジット・スプレッドの変動が AIGFP の資産と負債の評価額に及ぼした正味の影響に伴う大幅減益によって、一部相殺されました。

ILFC は、過日公表した航空機売却に伴う減損が唯一の原因となって、前年同期が 3.16 億ドルの営業利益を計上したのに対して、2010 年第 1 四半期は 5,600 万ドルの営業損失になりました。2010 年 4 月 13 日、ILFC は航空機ポートフォリオ売却契約を締結しましたが、当時の市況を受けて、2010 年第 1 四半期に計 3.47 億ドルの資産減損損失と、それらの資産および他の航空機に関する計 8,400 万ドルのオペレーティング・リース関連費用を計上しました。保有航空機の増加による賃貸料の増大、営業費用の減少、借入金利の低下といったプラス要因は、前年同期を上回る償却費と整備引当金によって一部相殺されました。2010 年には、ILFC は有担保、無担保のどちらでもクレジット市場を利用できるようになったことから、金融債務および営業債務の履行を目的に約 40 億ドルを調達し、また 22 億ドルのリボルディング・クレジット・ファシリティの拡大も行いました。

AGF は、延滞率低下に伴う貸倒引当金の減少、平均債務残高の低減による支払利息の減少、AGF の全事業にわたる管理費削減による営業費用の減少を反映して、2010 年第 1 四半期の営業損失は、前年同期の 2.03 億ドルに対して、1.32 億ドルに改善しました。これらの好ましい変化は、平均純債権の一段の減少を反映したファイナンス料収益の減少によって一部相殺されました。2009 年末以降、AGF は、2010 年 3 月に 10 億ドルの資産証券化で 5 億ドル以上の現金を調達し、2010 年 4 月には 30 億ドルの有担保タームローン取引を執行し、全額を借入れました。AGF はこれらの取引で調達した資金の一部、手元現金、および AIG の 2 件の要求払約束手形の返済で受領した資金を充当して、2010 年 3 月には 1 年物タームローン 24.5 億ドルの債務残高を全額返済し、翌 4 月には 5 年物リボルディング・クレジット・ファシリティー 21.25 億ドルの債務残高を全額返済しました（双方とも 2010 年 7 月が返済期限でした）。

その他の事業

2010 年第 1 四半期の親会社の業績には、前年同期の 28 億ドルの営業損失に対し、9.3 億ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失が含まれています。2010 年第 1 四半期の営業損失には、FRBNY の与信枠に関する支払利息 8.33 億ドル（前年同期は 15 億ドル）が算入されています。前年同期の親会社の業績には、金融受け皿会社（Maiden Lane III: ML III）における持ち分の評価損 19 億ドルが算入されていました。2009 年 5 月にこれらの持ち分を親会社から非中核事業に移管した結果、移管日以降の ML III の公正価値変動は、非中核保険事業の一部として、以下のように計上されています。

非中核保険事業には、ML III における AIG の持ち分と、住宅ローン保証保険事業を営む UGC が含まれています。非中核保険事業の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損益は、前年同期の 2.85 億ドルの損失に対し、2010 年第 1 四半期は 8.25 億ドルの利益を計上しました。これには、ML III における AIG の持ち分の評価益 7.51 億ドルが算入されています。

UGC の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損益は、前年同期の 4.83 億ドルの損失に対し、2010 年第 1 四半期は 7,300 万ドルの利益を計上しました。前年同期の 4.83 億ドルの損失には、第二抵当権付住宅ローン保証保険料延滞準備金の一部償却による恩恵 2.22 億ドルも算入されていました。個人向け学生ローン保証保険を除くすべての事業種類が、営業損益の前年同期比改善に寄与しました。そのうち最も貢献したのが、北米内の第一抵当権付住宅ローン保証保険商品でした。これは、新規に報告された延滞件数の減少と当期の不良債権処理の改善によるものでした。

2010年第1四半期のその他の非中核事業の業績には、2.48億ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失を含んでいます。これに対し、前年同期は4.48億ドルの営業損失でした。2010年第1四半期の業績には、所有する不動産投資の減損がマッチ型投資プログラムの受取利息増加によって一部相殺されたことも算入されています。与信環境が改善した結果、ならびに2009年第2四半期に一時的ではない減損に関する新たな会計基準を適用した結果、正味実現キャピタル・ロスが減少しました。2010年3月26日、AIGは資産運用事業の売却手続を完了しました。1月1日から売却手続完了までの間の業績は、非中核事業に属する機関投資家向け資産運用事業の業績に算入されています。この売却後も、売却した事業のインブリッジ・インベストメンツは、複数の資産クラスにまたがるAIGの投資資産約300億ドルを引き続き運用する予定です。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

この財務報告には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。

これらの予測および見解は、特にニューヨーク連銀（FRBNY）ならびに米国財務省との完了した取引の結果、処分の件数、規模、条件、費用、収益、処分の時期とこれらがAIGの事業、財務状況、業績、キャッシュフロー、流動性に及ぼし得る影響（AIGはいかなるときでも、また時間の経過と共に、いくつかの事業の売却計画を変更することがあります）、AIGの資産売却プログラムの結果に左右される長期的な事業構成、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場に対するAIGのエクスポージャー、AIG親会社からの事業の分離、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、そして顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略などを考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因は、AIGの事業再編計画で予定されていた取引の失敗、世界的な信用市場の動向、およびパートI項目2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）、パートII項目1A、2009年12月31日期末の年度についてのAIGのフォーム10-Kの四半期報告書の「リスク要因」で取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面また口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIGについて

AIGグループは世界の保険業界のリーダーであり、130以上の国・地域で事業展開しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業もAIGグループの世界的な事業となっています。持ち株会社AIG, Inc.の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非GAAP型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、およびAIG本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2010 年第 1 四半期の補足財務情報には、規定Gに基づく、最もGAAPに類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、AIG は市場の混乱に伴う事項、金融受け皿会社留保分、売却の影響、FRBNY の与信枠に関連した金利および分割償還、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、ALICO U.K.の投資型商品、シリーズ C 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）、変動持分事業体の影響、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動、のれん代の減損の影響、税金評価引当金、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、UGC 業績、異常災害関連損失の影響ならびに為替レートの影響前の収入、純利益、営業利益、関連した成果も示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、事業利益（損失）を示すことは、投資家の皆様にとって有益だけでなく、損害保険事業の結果を理解していただくために非常に重要となる財務情報を提供することになると考えています。損害保険会社の営業利益は、事業利益（損失）、正味投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）という 3 つの要素を含んでいます。事業利益（損失）の開示がなければ、保険会社が中核的事业活動でどれほど成功を取めているのか、あるいは、引受けリスクはどうかを判断することは不可能です。事業利益（損失）の情報を開示せずに、投資利益と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を営業利益に含めた場合には、引受損失を覆い隠してしまう可能性があります。正味投資利益額は、引受結果と全く関係のない、金利やその他の要素の変化が原動力となる場合があります。

事業利益（損失）は、損害保険事業の業績を判断するのに AIG の上級経営幹部が用いている重要な測定基準で、保険業界において業績の標準的な測定基準として用いられています。さらに、同じ理由から、AIG を追跡している証券アナリストも、分析の際は実現資本取引は除いており、当社に対し、GAAP 情報以外の情報の提供を常に要請してきています。

AIG は、保険当局により定められている、もしくは認められている会計原則に従って生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預り金およびその他の収入）、総収入保険料、正味収入保険料およびコンバインド・レシオを示していますが、これは、これらの会計原則が保険業界で使用されている業績の標準的な測定方法であるため、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由によるものです。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)
損害保険事業：			
正味収入保険料	\$ 7,644	\$ 7,727	(1.1) %
正味既経過保険料	7,641	8,272	(7.6)
事業利益 (損失)	(192)	275	-
正味投資利益	1,071	435	146.2
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前利益	879	710	23.8
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	137	(608)	-
税引き前営業利益 (損失)	1,016	102	-
<hr/>			
損害率	71.44	69.96	
経费率	31.07	26.72	
コンバインド・レシオ	102.51	96.68	
<hr/>			
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業：			
収入保険料およびその他の売上	1,315	1,440	(8.7) %
正味投資利益	2,707	1,930	40.3
正味実現キャピタル・ロス調整前利益 (損失)	1,123	(160)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(796)	(1,667)	-
税引き前営業利益 (損失)	327	(1,827)	-
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業：			
収入保険料およびその他の売上	864	925	(6.6) %
正味投資利益	346	324	6.8
正味実現キャピタル・ロス調整前利益	220	358	(38.5)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(135)	(486)	-
税引き前営業利益 (損失)	85	(128)	-
金融サービス事業：			
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動および 正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 税引き前の営業損失	(474)	(1,090)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動 (b)	-	2	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	35	(42)	-
税引き前営業損失	(439)	(1,130)	-
正味実現キャピタル・ゲイン、事業売却の純利益 (損失)、および会社間連結・ 消去調整前その他の項目	(276)	(3,784)	-
その他の正味実現キャピタル・ゲイン (b)	59	78	(24.4) %
事業売却の純利益 (損失)	(77)	262	-
会社間連結・消去調整 (b)(c)	140	(89)	-
継続事業のタックス・ベネフィット調整前利益 (損失)	835	(6,516)	-
タックス・ベネフィット	(91)	(1,303)	-
継続事業の純利益 (損失)	926	(5,213)	-
非継続事業の純利益 (損失)、税引き後	1,173	80	-
純利益 (損失)	2,099	(5,133)	-
控除：			
非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：			
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの 優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	519	-	-
その他	129	(774)	-
非支配的持ち分に帰属する継続事業の損失	648	(774)	-
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の損失	-	(6)	-
AIG に帰属する純損失	1,451	(4,353)	-
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ 294	\$ (5,365)	-

財務ハイライト（続き）

	3月31日までの3ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)
AIG に帰属する純利益（損失）	\$ 1,451	\$ (4,353)	-
AIG に帰属する非継続事業の利益、税引き後	1,173	86	-
事業売却の純利益（損失）、税引き後	(77)	175	-
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引後	(360)	(2,410)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの損失、税引後	(94)	(118)	-
AIG に帰属する調整後純利益（損失）	\$ 809	\$ (2,086)	-
普通株式1株当たり利益（損失） - 希薄化後：			
AIG 普通株主に帰属する純利益（損失）	\$ 2.16	\$ (39.67)	-
AIG 普通株主に帰属する調整後純利益（損失）	\$ 1.21	\$ (22.90)	-
AIG 株主資本の普通株式1株当り帳簿価額 (d)	\$ 555.80	\$ 340.12	63.4 %
AIG 株主資本の見積普通株式1株当り帳簿価額 (e)	\$ 36.92	\$ 8.44	337.4 %
平均発行済み株式 - 希薄化後	135.7	135.3	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2010年度の表示に合わせるため2009年度の結果では再分類されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- 連結されている特定の AIG が管理しているパートナーシップ、プライベート・エクイティおよび不動産ファンドからの利益（損失）を含んでいます。これらの利益（損失）は、継続事業の利益（損失）の構成要素ではない、非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益（損失）の中で相殺されています。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 米財務省の株式投資に関する AIG 株主資本を調整して算出した見積普通株式1株当り簿価額を示します。